

## 実践記録 (小2・生活)

### 1 ねらい

地域の春の町の様子についての意見交流を通して、自分の考えを広げることができるようにする。

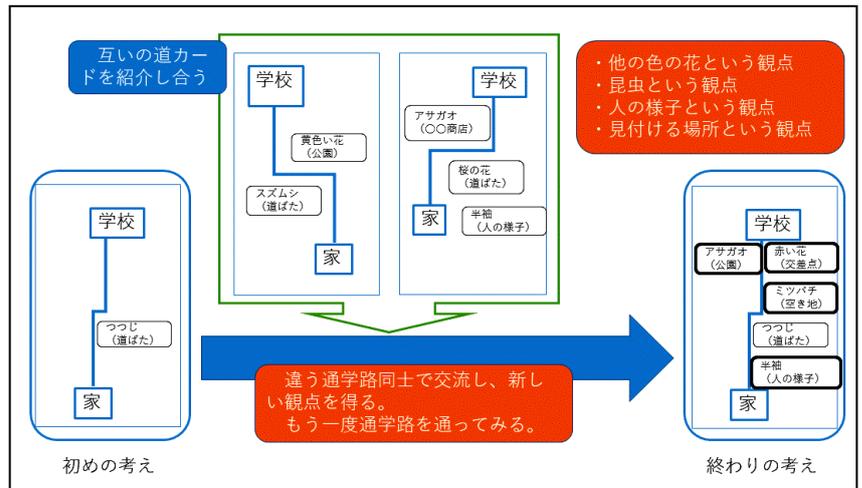
### 2 手立て

道カードを使って、意見交流を行う。

まず、夏や秋、冬の町の様子と現在の町（春の様子）を思い出しながら、通学路の様子の違いを書き出す。

次に、友達との意見交流を通して、植物や昆虫、人の暮らしなど互いの違う観点に気付かせる。

そして、その観点を基に実際に登下校することで、今まで何気なくすごしていた道に新たな気付きを生みたいと考える。



【道カードの使い方】

### 3 実践の様子

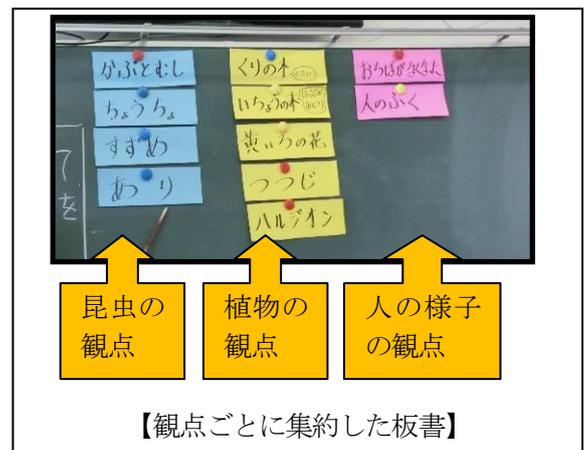
最初に、町の様子について冬からどのような変化があるのか調べようと活動のめあてを確認しあった。

そして、どれくらい自分の通学路に変化があるのかを捉えるため、気付いた春の様子を道カードに表した。すると、だんごむしやつつじなど、どの児童も1つか2つの気付きしか書けず、多くの気付きができる児童はいなかった。

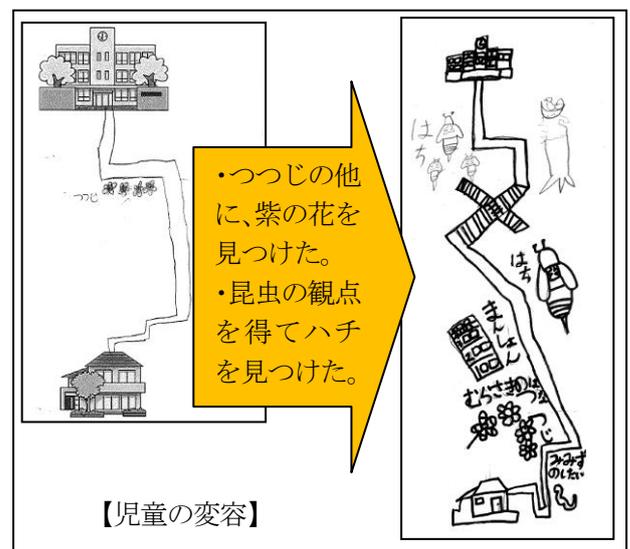
次に、児童の観点を増やすために、違う通学路どうしが集まった班の中で意見交流をした。交流を始めると、「モンシロチョウを見付けました。」「あ、私も〇〇公園で見た。アゲハチョウもいたよ。」など、他の児童が見付けた春の様子について自分の登下校の道でも当てはまりそうな内容や観点を見付けることができた。

最後に、帰り道と次の日の学校への登校時に様子の違いを発見してこようと告げた。

次の日、登校した児童から「先生、紫と赤の花を見つけたよ。」「交差点の家につばめの巣があったよ。」などといった声が聞こえた。



【観点ごとに集約した板書】



【児童の変容】

### 4 成果と課題

- 意見交流を通して、自分の考えを深めることができ、春の様子の違いにより多く気付ける児童が増えた。
- どの児童がどのような気付きをもったのか教師側で把握し、それを教師が全体に広げること、より多くの気付きをもたすことができたと感じる。